

1 学校教育目標

<教育理念>

地域の特性を生かし、国際化の進展に対応した学校づくり ～飛翔～

<教育方針>

6年間の計画的・継続的な教育活動を通して、生きる力を育み、誇りと自信をもって世界に飛躍する人材の育成を図る。

<6つの特色ある教育活動「飛翔プロジェクト」>

- 1 大学・地域連携＝コミュニティ・スクール導入による大学や地域との連携
- 2 人間教育＝生徒会活動・部活動等による豊かな人間性と主体性の育成
- 3 学力育成＝6年一貫の効果的な教育課程による学力育成と進路実現
- 4 国際教育＝国際交流と語学教育の充実によるグローバル人材の育成
- 5 サイエンス教育＝理数教育や講演会等の充実による理系人材の育成
- 6 総合「海峡学」＝キャリア教育と探究活動による主体的学習者の育成

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)

(1) 確かな学力の保証

→ 各学年・教科で学力のデータ分析を行い、全教員で共通理解を図り、授業改善などに取り組んだ結果、如実な学力向上がみられた。今後とも一層学力向上に取り組むたい。

○次期学習指導要領に基づき新大学入試制度に対応した教育課程の編成を完成させる。

・次期学習指導要領に対応した新教育課程の研究に全教科で取り組み、編成を終えた。

さらに、新大学入試制度についても研究を深め、より効果的な教育課程の編成に努めたい。

○授業以外での学習時間の目標を示すことで生徒の主体的な学習習慣の確立を図る。

・授業以外の学習時間については、生徒・保護者の約半数、教員の7割が不足していると感じている。今後の大きな課題である。

○世界に飛躍する人材の育成に向けて、英語教育の改善・充実を図る。

・本校主催の英語学習セミナーに加え、民間業者による同セミナーの実施など、授業以外での英語教育にも積極的に取り組んだ。

・平成29年度入学生から、4回生時での14日間カナダ語学研修に変更し、より効果的な英語教育を計画している。

(2) 生徒一人ひとりの希望進路の実現

→ 一人ひとりに対応した適切な指導により、就職希望者3名は公務員2名を含め希望実現、進学希望者112名は107人が希望を実現した。

○生徒が明確な将来像を描けるよう、大学や地元企業と連携した大学等ゼミ訪問や企業研究等の取組を一層推進していく。

・1回生で下関市立大学訪問、2回生で山口東京理科大学訪問・地元の最先端工場見学、3回生で山口大学本学、4回生で志望大学オープンキャンパス参加、5回生で研究分野別大学ゼミ訪問を実施し、生徒の明確な進路意識を醸成することができた。

○各学年で模擬試験結果などの進路データを有効に活用した進路検討会を実施する。

・各学年の進路検討会で模擬試験結果などを分析し、適切な対応をした結果、模試成績につながった。

○本校で構築した新たな大学入学者選抜制度への対応を着実に実践していく。

・小論文対策・面接対策に組織的に取り組み、大きな成果をあげた。

・作成された面接・集団討論の生徒用マニュアルが指導に生かされ、進学実績が大きく向上した。

(3) 豊かな心を持ち、グローバル社会を生き抜いていく力を身に付けた生徒の育成

→ 各分掌・学年で人間教育に取り組み、着実に成果をあげている。

○生徒会、学校行事、寮におけるリトル・ティーチャー制により、生徒のリーダーシップを育成する。

・各種行事において、リトル・ティーチャー制を取り入れ、生徒の企画・運営・指導力を発揮させ、生徒の自主活動を推進させることができた。

・寮生活においてもリトル・ティーチャー制を取り入れることで、自立心が育ち、円滑な生活を送ることができた。

○人間関係づくりや国際交流の活動等を通して、コミュニケーション能力を高め、他者を尊重し協働して問題を解決していく力を育む。

・学校行事や学年行事で、生徒が主体的に活動する場を多く設定し、望ましい集団の育成に努めた。

○生徒が主体的に取り組むボランティア活動を一層推進する。

・ペットボトルキャップ・プルタブなどの収集ボランティア、歳末たすけあい募金活動・トイレ掃除ボランティアなどに多くの生徒が参加した。今後も多くの生徒が参加できるように、一層の充実を図っていく。

○留学制度について啓発活動の充実を図り、生徒の参加を促進する。

・海外留学について啓発活動に取り組み、留学を促進した結果、「トビタテ！留学JAPAN」への参加など、留学する生徒が増加した。

(4) 組織としての課題解決力の確立

→ 全教員がリスクマネジメント意識を持てるように今後とも計画的に研修に取り組んでいく。

○教科研修会、互見授業と教科領域別研究授業等の計画的な実施により、教員全体の教科指導力を一層高める。

・各教科で定期的・計画的に研修会を開催し、教科指導力向上に励んだ。

・互見授業については、今後一層の工夫・充実が求められる。

○生徒指導、道徳・人権教育、教育相談等の計画的な研修により、いじめや問題行動等への対応を含む教員の指導力の一層の向上を図る。

・計画的に研修を実施した。引き続き教員の指導力の一層の向上を図っていく。

(5) 生徒募集活動の強化による志願者数の増加

→ 志願倍率が1.5倍と依然と高く、強い目的意識と高い学力を持った児童が志願した。

○本校の教育活動を整理した「飛翔プロジェクト」を推進し、地域や保護者への広報活動の充実を図る。

・「飛翔プロジェクト」を推進し、地域・保護者への広報活動を充実させることにより、本校の教育活動の理解が深まった。

○小学生を対象とした、おいのやまサイエンスセミナー、英会話教室、部活動体験などの取組の充実を図る。

・本校での教育活動体験により本校への興味・関心が一層強まり、強い目的意識と高い学力を持った児童が志願した。

3 本年度重点目標

本年度は、飛翔プロジェクトを円滑に運営することで、地域や大学との連携を一層深めながら「未来社会を生き抜く総合的な人間力」と「高い学力」を培い、世界に飛躍する人材の育成に向けて教育活動の充実に努める。

(1) 確かな学力の保証

- 新大学入試制度に対応した指導の研究を深め実践する。
- 生徒の主体的な学習習慣の確立を図る。
- 世界に飛躍する人材の育成に向けて、英語教育の改善・充実に努める。

(2) 生徒一人ひとりの希望進路の実現

- 生徒が明確な将来像を描けるよう、大学や地元企業と連携した大学ゼミ訪問や企業研究等を円滑に実施する。
- 本校で構築した新たな大学入学者選抜制度への対応を着実に実践していく。

(3) 豊かな心を持ち、グローバル社会を生き抜いていく力を身に付けた生徒の育成

- 生徒会、学校行事、寮におけるリトル・ティーチャー制により、生徒のリーダーシップを育成する。
- 人間関係づくりや国際交流の活動等を通して、コミュニケーション能力を高め、他者を尊重し協働して問題を解決していく力を育む。
- 生徒が主体的に取り組むボランティア活動を一層推進する。
- 留学制度について啓発活動の充実に努め、生徒の参加を促進する。

(4) 組織としての課題解決力の確立

- 教科研修会と互見業等の計画的な実施により、教員全体の教科指導力を一層高める。
- 生徒指導、道徳・人権教育、教育相談等の計画的な研修により、いじめや問題行動等への対応を含む教員の指導力の一層の向上を図る。

(5) 生徒募集活動の強化による志願者数の増加

- 本校の教育活動を整理した「飛翔プロジェクト」を推進し、地域や保護者への広報活動の充実に努める。
- 小学生を対象とした、おいのやまサイエンスセミナー、英会話教室、部活動体験などの取組の充実に努める。

| 4 自己評価 | | | | | | 5 学校関係者評価 | |
|--------|------------------------------|---|---|-----|---|--|----|
| 分掌 | 重点目標 | 具体的方策（教育活動） | 評価基準 | 達成度 | 重点目標の達成状況の診断・分析 | 学校関係者からの意見・要望等 | 評価 |
| 教務 | 学習指導要領改訂に伴う教育課程の編成 | 新教育課程検討委員会やプロジェクト委員会にて、生徒一人ひとりの希望進路の実現に向けた科目選択ができるよう、新教育課程の検討を行う。 | 4 新教育課程検討委員会等にて、授業単位数の調整や選択科目の内容検討・精選を十分に図った。 | 2 | ○ 教育課程検討委員会、プロジェクト委員会、職員会議で協議、検討を重ね次期学習指導要領に対応し、新しい学力観に立った学習指導が可能となる教育課程を編成した。カリキュラム・マネジメントの視点で改善・充実が必要である。 | 新しい学力観を意識しながら、学力向上に向けた学習指導の充実に努めていきたい。同時に、中高一貫校の利点となる教育内容の速修化を生かし、進路実現を可能にする効果的な教育課程の研究を行っていただきたい。 | A |
| | | | 3 新教育課程検討委員会等にて、授業単位数の調整や選択科目の内容検討・精選をほぼ図った。 | | | | |
| | | | 2 新教育課程検討委員会等で検討したが、授業単位数の調整や選択科目の内容検討・精選が図れなかった。 | | | | |
| | | | 1 新教育課程検討委員会等での検討を1回も行わなかった。 | | | | |
| | 朝学やステップアップノートなど学力向上の更なる取組の推進 | 朝学やステップアップノートへの取組をはじめとして、日々の学習活動を進める中で学力向上を図る。 | 4 学力推移調査や進研模試での偏差値の伸びが6学年全体で平均して年間1.5ポイント以上向上した。 | 2 | ○ 民間テストの偏差値の伸びが6学年全体で0.3ポイント向上した。学年間で数値のばらつきが大きいため、全学年で成績の向上が見られるように、学習指導を工夫する体制を整える。 | 民間テストの偏差値の伸びが0.3ポイント向上と言う数値は、十分に評価できる。今後とも学力向上の更なる取組を推進していただきたい。 | B |
| | | | 3 学力推移調査や進研模試での偏差値の伸びが6学年全体で平均して年間1ポイント以上向上した。 | | | | |
| | | | 2 学力推移調査や進研模試での偏差値の伸びが6学年全体で平均してほとんど変化しなかった。 | | | | |
| | | | 1 学力推移調査や進研模試での偏差値の伸びが6学年全体で平均してマイナスとなった。 | | | | |

| 分掌 | 重点目標 | 具体的方策（教育活動） | 評価基準 | | | | | |
|--------------------------------|--|--|---|---|--|--|---|---|
| 生徒指導 | 生徒会活動・学校行事におけるリトル・ティーチャー制の推進 | 生徒会活動、学校行事等で、リトル・ティーチャー制を取り入れ、上級生から下級生への仕事の指導や計画的な引き継ぎにより、学校行事や生徒会活動などを活性化させる。 | 4 生徒による学校評価アンケートの学校行事・生徒会活動で、上級生は仕事を親切に教えてくれたあるいは教えたという結果が80%以上である。 | 4 | ○ 89%の生徒が、学校行事・生徒会活動で、上級生は仕事を親切に教えてくれたあるいは教えたという認識がある。かつ、89%の生徒が、幅広い年齢層の生徒がいることは自分にとってプラスだと思っている。 | リトル・ティーチャー制は中等教育学校での教育活動の特色の一つである。生徒同士が学年を超えてコミュニケーションを図り、温かい人間関係を築く力を育てていきたい。 | A | |
| | | | 3 生徒による学校評価アンケートの学校行事・生徒会活動で、上級生は仕事を親切に教えてくれたあるいは教えたという結果が70%以上である。 | | | | | |
| | | | 2 生徒による学校評価アンケートの学校行事・生徒会活動で、上級生は仕事を親切に教えてくれたあるいは教えたという結果が60%以上である。 | | | | | |
| | | | 1 生徒による学校評価アンケートの学校行事・生徒会活動で、上級生は仕事を親切に教えてくれたあるいは教えたという結果が60%未満である。 | | | | | |
| | ボランティア活動の活性化 | 校内や校外でのボランティア活動など、地域に目を向けた活動を計画・実施する。 | 4 生徒による学校評価アンケートのボランティア活動が盛んだという結果が80%以上である。 | 4 | ○ 84%の生徒が、本校はボランティア活動が盛んだと感じており、歳末助け合い運動、校内トイレ掃除ボランティアなど、積極的に活動している。また、発展途上国への物資支援を生徒が発案し、実施するなど、生徒が主体的にボランティア活動を行っている。 | 生徒のボランティア活動への参加意欲は高いと思われる。生徒が活躍する機会をより多く提供していただきたい。 | A | |
| | | | 3 生徒による学校評価アンケートのボランティア活動が盛んだという結果が70%以上である。 | | | | | |
| | | | 2 生徒による学校評価アンケートのボランティア活動が盛んだという結果が60%以上である。 | | | | | |
| | | | 1 生徒による学校評価アンケートのボランティア活動が盛んだという結果が60%未満である。 | | | | | |
| | 挨拶を含む生徒のマナー・規範意識の向上 | 交通安全指導、あいさつ運動を通して、ルールからマナー・エチケットへと意識改革を図るとともに、情報モラルや薬物乱用防止の講演会を計画・実施する。 | 4 生徒による学校評価アンケートの「生活の心得が守られている」という結果が80%以上である。 | 4 | ○ 96%の生徒が、本校の「生活の心得」や身だしなみについてを含めたマナーを守って学校生活を送っているとの認識がある。生徒会役員が集会で身だしなみについての声掛けやマナーアップ週間にて意識を高めている。また、情報モラル教室や薬物乱用防止教室の講演会を真剣な態度で臨み、理解を深めた。 | 生徒は規範意識を高くもち、落ちついた学校生活を送っている。お互い気持ちのよい挨拶ができる学校づくりを進めていただきたい。 | A | |
| | | | 3 生徒による学校評価アンケートの「生活の心得が守られている」という結果が70%以上である。 | | | | | |
| | | | 2 生徒による学校評価アンケートの「生活の心得が守られている」という結果が60%以上である。 | | | | | |
| | | | 1 生徒による学校評価アンケートの「生活の心得が守られている」という結果が60%未満である。 | | | | | |
| いじめ・問題行動等に迅速に対応する組織的な生徒指導体制の確立 | 積極的な生徒指導を推進し、かついじめ・問題行動等に迅速に対応するために、学年間、教員間の情報共有と、組織的な対応を実施する。 | 4 生徒の心を育てる予防的・教育的な働きかけを行い、生徒の変化への気づきや生活アンケート等で分かる課題に対して、迅速かつ組織的に対応することができた。 | 3 | ○ 生徒の抱える不安や悩みおよび人間関係のトラブルなど、課題解決のため教員同士が月1回の情報交換を行った。また、緊急性の高い課題については、随時緊急対応を行うなど、組織的に対応することができた。 | 問題行動等に対し、生徒の心情を理解しながら組織として迅速に対応していただいている。日常的に生徒観察を行い、情報を共有して組織的な対応を引き続き保っていたきたい。 | A | | |
| | | 3 生徒の心を育てる予防的・教育的な働きかけを行い、生徒の変化への気づきや生活アンケート等で分かる課題に対して、組織的に対応することができた。 | | | | | | |
| | | 2 生徒の心を育てる予防的・教育的な働きかけを行い、生徒の変化への気づきや生活アンケート等で分かる課題に対して、対応することができた。 | | | | | | |
| | | 1 生徒の心を育てる予防的・教育的な働きかけを行い、生徒の変化への気づきや生活アンケート等で分かる課題に対して、対応することができなかった。 | | | | | | |
| 進路指導課 | キャリア指導 | 総合的な学習「海峡学」による明確な進路意識を醸成するキャリア教育の推進 | 4 80%以上の生徒がキャリア意識（進路意識）の向上を肯定的に感じた。 | 4 | ○ 86%の生徒がキャリア意識が向上したととらえている。「3-6トーク」と3・4・5年生対象の「進路講演会」は実施できなかったが、2年生対象の進路講演会に1年生も加えて実施することができた。また、従来、後期生の枠組みで行っていた「出前講義」に本年度から3年生も参加するなど、学習内容の先取りに合わせ、キャリア意識の向上に取り組んだ。 | 前期課程段階からの大学訪問、後期課程の大学等ゼミ訪問をはじめ、各学年のキャリア教育の取組が生徒の進路意識の高揚に結び付いている。 | A | |
| | | | 3 60%以上の生徒がキャリア意識（進路意識）の向上を肯定的に感じた。 | | | | | |
| | | | 2 40%以上の生徒がキャリア意識（進路意識）の向上を肯定的に感じた。 | | | | | |
| | | | 1 生徒のキャリア意識の向上は十分に認められなかった。 | | | | | |
| | 進学指導 | 進学実績の向上 | 模試の成績状況の継続的提供と各回生での進路検討会を実施する。 | 4 模試成績資料を複数回提供し、各回生で進路検討会を複数回実施できた。 | 3 | ○ 模試成績資料は各回ごとに提供できたが、進路検討会は1回しか実施できなかった。 | 低学年段階からこまめに各学年へ成績資料を提供し、希望者模試についてもより積極的な受験指導を行っていただきたい。 | A |
| | | | | 3 模試成績資料を複数回提供し、各回生で進路検討会を年1回実施できた。 | | | | |
| | | 2 模試成績資料を複数回提供することができた。 | | | | | | |
| | | 1 模試成績資料を複数回提供するに至らず、各回生での進路検討会も実施できなかった。 | | | | | | |
| 新大学入試への対策の充実 | 新大学入試に関する必要な情報を提供し、ポートフォリオのシステムの導入と周知徹底を図る。 | 4 入試情報を複数回提供し、ポートフォリオのシステムの導入と周知徹底を図ることができた。 | 3 | ○ 新大学入試に関する入試情報は複数回提供できたが、ポートフォリオに関する情報は、3月に予定した進路講演会が中止となり、周知徹底ができなかった。 | 新大学入試システムの動向を踏まえ、ポートフォリオのシステムの改善・充実を図り、生徒が積極的に活用する指導をお願いしたい。 | A | | |
| | | 3 入試情報を複数回提供したが、ポートフォリオのシステムの導入と周知徹底を図ることはできなかった。 | | | | | | |
| | | 2 入試情報を1回提供したが、ポートフォリオのシステムの導入と周知徹底を図ることはできなかった。 | | | | | | |
| | | 1 入試情報を一度も提供できず、ポートフォリオのシステムの導入と周知徹底を図ることもできなかった。 | | | | | | |
| 保健体育課 | 体力の向上と心身共にたくましい人間力の育成 | 体育的行事や日々の生活の中で、主体的・積極的に活動し、良好な対人関係を築く力を高め、体力及びたくましい人間力の向上を図る。 | 4 体力及び人間力の向上に積極的に取り組み、80%以上の生徒が成果をあげたと感じる事ができた。 | 4 | ○ 体育大会後の生徒アンケートでは、90%以上の生徒が、体力、人間力、または両方が向上したと答えていた。人前でのコミュニケーション能力や周りを見て動く力・判断力、人間関係・助け合う心、体力・忍耐力などの向上や広がりが見られたと答えていた。他の行事や授業・部活動等の中でも関係者と連携し、PDCAサイクルを活用して十分な成果をあげていきたい。 | 体育大会やマラソン大会等で、生徒達の強く思いやりのある心を育てていただいている。引き続き生徒の主体的な活動を推進してもらいたい。 | A | |
| | | | 3 体力及び人間力の向上に積極的に取り組み、半数以上の生徒が成果をあげたと感じる事ができた。 | | | | | |
| | | | 2 体力及び人間力の向上に積極的に取り組み、成果をあげたと感じる事ができた生徒が半数以下であった。 | | | | | |
| | | | 1 ほとんどの生徒が、体力及び人間力の向上に積極的に取り組むことができず、成果があらなかった。 | | | | | |
| | 清掃・環境美化意識の向上と実践力の育成 | 見つけ掃除を中心とした清掃活動・校内美化活動の取組を通じて、生徒が積極的に校内の環境改善に携われる行動意欲の向上を図る。 | 4 80%以上の生徒に、校内の環境美化に関する意識・行動の向上が見られた。 | 3 | ○ 校内美化に関するアンケートでは、生徒の肯定的な評価は73%であった。保護者の肯定的な評価は90%超であり、行事前などの掃除への取組意識や教室内での美化意識は比較的高い。○ 生徒が日常的に積極的に環境改善に取り組む姿勢を醸成するためには、啓発活動をもっと充実させることが必要である。 | 環境美化は生徒の落ち着いた学校生活や学力向上を促す。よって、意識向上への指導の充実を今後ともお願いしたい。 | A | |
| | | | 3 半数以上の生徒に校内の環境美化に関する意識・行動の向上が見られた。 | | | | | |
| | | | 2 校内の環境美化に関する意識・行動の向上が見られた生徒は半数以下であった。 | | | | | |
| | | | 1 生徒の校内の環境美化に関する意識・行動の向上が十分に図れなかった。 | | | | | |

| 分掌 | 重点目標 | 具体的方策（教育活動） | 評価基準 | 達成度 | 重点目標の達成状況の診断・分析 | 学校関係者からの意見・要望等 | 評価 |
|-----------|-----------------------------|---|---|-----|--|--|----|
| 保健体育課 | 眼の健康に関する意識の醸成 | 視力低下や眼科疾患と自身の生活習慣やICT機器の使用方法などの関連を知ることにより、適切にICT機器やメディアを活用する意識や態度を養う | 4 学校評価アンケートの保健衛生に関する項目で肯定的な評価が80%以上であった。 | 4 | ○ 学校評価アンケートでは平均して80パーセント以上の肯定的な評価が得られた。また、例年に比べて保護者の学校保健安全委員会への参加者も多く、関心の高さが伺えた。廣重眼科校医からの目の健康についての講話は生徒にも保護者にも好評であったことが感想文やアンケートからも伺えた。 ○ 引き続き、本校の健康課題を的確に把握し、課題解決に向けて取り組みたい。 | 眼の健康に関する意識の醸成は左記の様々な働きかけもあり達成できていると思われる。次年度も啓発活動の充実を図っていただきたい。 | A |
| | | | 3 学校評価アンケートの保健衛生に関する項目で肯定的な評価が60%以上であった。 | | | | |
| | | | 2 学校評価アンケートの保健衛生に関する項目で肯定的な評価が40%以上であった。 | | | | |
| | | | 1 学校評価アンケートの保健衛生に関する項目で肯定的な評価が40%未満であった。 | | | | |
| 寮務課 | リトル・ティーチャー制による寮生活の充実 | 寮におけるリトル・ティーチャー制により、挨拶や時間を守ることなど集団生活に必要な規律を身につけさせ、円滑な寮生活を送ることができるようになる。 | 4 寮におけるリトル・ティーチャー制を発展させ、寮生が十分に充実した集団生活を送ることができた。 | 4 | ○ 寮生活について各階で上級生が下級生に決まりを教えたり、相談に乗ったりしながらよい雰囲気で行うことができた。 ○ 寮長を中心に委員会活動を通して、年間3回の大掃除や毎日の清掃などの環境整備活動や異学年で構成したチーム対抗のバドミントン大会や音楽鑑賞会などレクリエーション活動を行い、充実した寮生活を送ることができた。 | 上級生と下級生の良好な人間関係が見られる。規律を保ちながら、円滑な寮生活を送る環境づくりをお願いしたい。 | A |
| | | | 3 寮におけるリトル・ティーチャー制を発展させ、寮生がおおむね充実した集団生活を送ることができた。 | | | | |
| | | | 2 寮におけるリトル・ティーチャー制を発展させたが、寮生が充実した集団生活を送るまでには至らなかった。 | | | | |
| | | | 1 寮におけるリトル・ティーチャー制を発展させることができず、寮生が充実した集団生活を送ることもできなかった。 | | | | |
| 中等教育学校推進課 | 学習環境の一層の充実と生徒の学力向上 | 学習時間の有効な活用と個々の生徒への相談活動の充実を通して学力を向上させる。 | 4 学習時間に集中して学習できる生徒が80%以上であり、学習時間以外でも時間を見つけて、学習する姿が見られた。 | 3 | ○ 上級生が新入生に、寮での生活について教えたり、一緒に学習しながら学習に臨む態度等を示したりした。 ○ 1回生の多目的室での学習の他、ロビーで学習する上級生の姿が多く見られた。 ○ 自習室や自室で学習する上級生は静かに学習できた。 | 上級生が模範を示しながら、限られた時間の中で個々人が集中して学習に臨む指導を引き続きお願いしたい。 | A |
| | | | 3 学習時間に集中して学習できる生徒が80パーセント以上であった。 | | | | |
| | | | 2 学習時間に集中して学習できる生徒が70%以上であった。 | | | | |
| | | | 1 学習時間に集中して学習できる生徒が70%に満たなかった。 | | | | |
| 中等教育学校推進課 | 校内研修・研究授業の充実 | 互見授業と教科領域別研究授業を実施することを通して、主体的・対話的で深い学びを実現できる研究環境づくりを推進する。 | 4 90%以上の教員が互見授業を実施した。 | 4 | ○ 活発に研究授業が展開され、教科研修会などで、お互いの教師の課題意識が共有される場が多くなった。 ○ 互見授業を参観できる教師をさらに増やせるように、改善を図る。 ○ 新しく展開されたイメージ教育を今後とも確実に進めていきたい。 | 生徒の学力向上に資する先生方の授業力向上のために、今後とも全教員が積極的に互見授業を実践してもらいたい。 | A |
| | | | 3 70%以上の教員が互見授業を実施した。 | | | | |
| | | | 2 50%以上の教員が互見授業を実施した。 | | | | |
| | | | 1 50%未満の教員が互見授業を実施した。 | | | | |
| 中等教育学校推進課 | 国際交流活動や留学・海外研修によるグローバル人材の育成 | 総合的な学習の時間（東アジア文化入門）、海外派遣事業、諸外国からの学校訪問受入等を積極的に行う中で、国際交流のリーダーとなる生徒を育てる。 | 4 学校に関するアンケート結果と国際交流に関する調査結果の90%以上が肯定的であった。 | 4 | ○ アンケートの結果95パーセント以上の肯定的な評価を得られた。今後とも、生徒自身による「6年間の学びのデザイン」に資する機会を多く提供したい。 ○ 短期・長期語学研修説明会の参加者の増加を図りたい。 | 他校にない充実した国際交流活動が行われている。生徒の国際感覚も着実に育まれているのではないかと。 | A |
| | | | 3 学校に関するアンケート結果と国際交流に関する調査結果の70%以上が肯定的であった。 | | | | |
| | | | 2 学校に関するアンケート結果と国際交流に関する調査結果の50%以上が肯定的であった。 | | | | |
| | | | 1 学校に関するアンケート結果と国際交流に関する調査結果の50%未満が肯定的であった。 | | | | |
| 中等教育学校推進課 | NIEの組織的な推進 | NIE活動を学習活動や生徒会活動に位置づけ、学校全体で新聞活用を行える環境をつくる。 | 4 90%以上の教員が新聞を活用した指導を実施した。 | 3 | ○ 生徒、教員とも新聞活用を伴う効果的な学習指導への意欲が高まってきた。 ○ 進路選択や受験資料に有効に活用する後期生が格段に増えた。継続した成果であると考えている。 ○ 新聞協会から提供される9～12月期だけでなく年間を通して活用しやすい形で新聞を生徒に提供したい。 | 新聞を通じてより高度な単語にふれ、情報を入力し、自身の考えを形成していくプロセスを大切にしたい。引き続き組織的な対応をお願いしたい。 | A |
| | | | 3 70%以上の教員が新聞を活用した指導を実施した。 | | | | |
| | | | 2 50%以上の教員が新聞を活用した指導を実施した。 | | | | |
| | | | 1 50%未満の教員が新聞を活用した指導を実施した。 | | | | |
| 大学・地域連携課 | 大学等ゼミ訪問の円滑な運営 | 校内外担当者と連携し、円滑に運営する。 | 4 円滑な運営がなされた。 | 2 | ○ 3月に予定していた大学ゼミ訪問が次年度に延期となり、年度内の実施が3割に止まった。次年度に向けて、運営方法について改善の必要性がある。 | 大学等ゼミ訪問については、3割の実施にとどまったことについて、次年度へ向けて運営方法の改善をされたい。 | B |
| | | | 3 円滑な運営がおおむねなされた。 | | | | |
| | | | 2 円滑な運営がほとんどなされなかった。 | | | | |
| | | | 1 円滑な運営がなされなかった。 | | | | |

| 分掌 | 重点目標 | | 評価基準 | 達成度 | 重点目標の達成状況の診断・分析 | 学校関係者からの意見・要望等 | 評価 | |
|------|------|------------------------------------|--|--|-----------------|---|--|---|
| 1 回生 | 学習指導 | 主体的な学習習慣の確立と基礎学力の定着 | 授業前に2分前着席・黙想を確実にし、朝読書（朝学）も充実し、学校での落ち着いた学習環境の充実を図る。 | 4 2分前着席・黙想・朝読書（朝学）のうち、すべてが充実し、学習環境がしっかりした。 3 2分前着席・黙想・朝読書（朝学）のうち、2つが充実した。 2 2分前着席・黙想・朝読書（朝学）のうち、1つが充実した。 1 2分前着席・黙想・朝読書（朝学）において、どれも十分できなかった。 | 4 | ○ 授業前の2分前着席・黙想について定着してきており、落ち着いて授業に臨んでいる。朝読書については、洋書も取り入れ実施した。総じて学習環境は整い、学校生活は落ち着いていた。 | 生徒は落ち着いて学習に取り組んでいると感じられる。 | A |
| | 生活指導 | 一人ひとりが活躍できる場の設定による豊かな人間性と望ましい集団の育成 | 学年集会、行事、委員会活動等を生徒に企画・運営させることにより、自己有用感を育て、望ましい集団の育成を図る。 | 4 生徒主体の委員会・集会活動を学期に3回以上実施した。 3 生徒主体の委員会・集会活動を学期に2回程度実施した。 2 生徒主体による学年活動・委員会活動を学期に1回程度実施した。 1 生徒主体による学年活動・委員会活動ができなかった。 | 3 | ○ 1回生は行事も多く、フレンドシップキャンプにおける各活動、平家踊り、私の意見発表会、海峡学「下関探訪」の発表会、学年集会などで一人ひとりが活躍し、豊かな人間性と望ましい集団の育成が図れた。課題として取り組みにかかる時間確保が難しいので工夫が必要である。 | 1回生の人間関係づくりには、今後も引き続き特に力を入れてもらいたい。 | A |
| 2 回生 | 学習指導 | 主体的に学習する習慣・確かな学力の定着 | 朝読書から充実した朝学へ移行し、2分前着席・2分前黙想を自主的にでき、確かな学力の定着を図る。 | 4 2分前着席・黙想・朝学のうち、すべてが充実し、学力推移調査の平均のG T ZがB 1以上であった。 3 2分前着席・黙想・朝学のうち、2つが充実し、学力推移調査の平均のG T ZがB 2以上であった。 2 2分前着席・黙想・朝学のうち、2つが充実し、学力推移調査の平均のG T ZがB 3以上であった。 1 2分前着席・黙想・朝学において、どれも十分できず、学力推移調査の平均のG T ZがC以下であった。 | 4 | ○ 2分前着席・黙想について、定着してきており、朝読書から朝学への移行は、スムーズになされた。前日に予習をし、新研究ノートを手帳に提出し、その内容を朝学プリントですという一連の流れはできている。第3回学力推移調査（最終）の平均のG T Zは、B 1であった。 | 朝学を実施するなど自己学習力の伸長が図られている。 | A |
| | 生活指導 | 一人ひとりが活躍できる場の設定による豊かな人間性と望ましい集団の育成 | 学年集会、行事、委員会活動等を生徒に企画・運営させることにより、自己有用感を育て、望ましい集団の育成を図る。 | 4 生徒主体の委員会・集会活動・学年レクリエーションを学期に3回以上実施し、プレゼンテーションの発表会ができた。 3 生徒主体の委員会・集会活動・学年レクリエーションを学期に2回実施した。 2 生徒主体による委員会・集会活動・学年レクリエーションを学期に1回実施した。 1 生徒主体による学年活動・委員会活動ができなかった。 | 3 | ○ 生徒主体の委員会・集会活動は、学期に3回やる予定であったが、最後に臨時休業が入ってきたため、最後ができていない。ただし、職場体験活動のプレゼンテーションの発表会や、私の意見発表の学年発表会、学年での百人一首大会は、計画的に実施できた。 | 生徒は学校行事等に意欲的に取り組んでいると感じられる。 | A |
| 3 回生 | 学習指導 | 発展的な学力を身に付けるための学習習慣の定着 | 計画性のある学習サイクルを身に付ける。 | 4 計画性のある学習サイクルが身に付いたと感じた生徒が80%以上であった。 3 計画性のある学習サイクルが身に付いたと感じた生徒が50%以上であった。 2 計画性のある学習サイクルが身に付いたと感じた生徒が30%以上であった。 1 計画性のある学習サイクルが身に付いたと感じた生徒がほとんどいない。 | 3 | ○ 考査・接続テスト・学力推移調査を大きな学習の柱として1年間、学習を進めてきた。学習時間を2時間以上確保している割合は平日では39%、休日46%であり、後期課程に移行するにあたり、今後学習時間の確保と充実が一層必要と思われる。数学・英語が後期課程の内容になって以降、毎日の学習習慣がついてきたように思われる。年度末の学力推移調査の平均のG T ZはB 1で、基礎学力の定着と全体の底上げができたと考えられる。 | 学習習慣の定着により、基礎学力が向上していることがうかがえる。今後とも一層の学力の向上に取り組んでいただきたい。 | A |
| | 生活指導 | 一人ひとりが活躍できる場の設定による豊かな人間性と望ましい集団の育成 | 学年集会、行事、委員会活動等を生徒に企画・運営させることにより、自己有用感を育て、望ましい集団の育成を図る。 | 4 生徒の80%以上が自己有用感を感じた。 3 生徒の50%以上が自己有用感を感じた。 2 生徒の30%以上が自己有用感を感じた。 1 生徒のほとんどが自己有用感を感じることができなかった。 | 4 | ○ 海峡学での調査、語学研修や海外派遣の体験報告などのプレゼンテーションの発表会や意見発表会など、生徒主体で会を企画・実行することができた。また、部活動でも具体的な目標に向け一生懸命練習し、その目標を達成し、多くの生徒が達成感を感じるようになった。 | 生徒は主体的に活動に取り組んでいると感じられる。 | A |
| 4 回生 | 学習指導 | 学習内容の定着 | 定期考査や模擬試験受験後の指導を計画的・継続的に行う。 | 4 ステップアップノート（復習ノート）の提出率が90%以上であった。 3 ステップアップノート（復習ノート）の提出率が80%以上であった。 2 ステップアップノート（復習ノート）の提出率が70%以上であった。 1 ステップアップノート（復習ノート）の提出率が70%未満であった。 | 3 | ○ 各教科において、定期考査後に各自でノートを作成させ、考査内容の見直しを行わせた。提出状況はそれぞれの教科で70%～90%とおおむね良好であった。国語、数学、英語ではさらに、ベネッセ模試（7月、11月、1月）の見直しにも活用した。 | 受験後の指導は学習内容の定着に効果的だと考えられる。引き続き、計画的・継続的に行っていただきたい。 | A |
| | 生活指導 | 基本的な生活習慣の確立 | スケジュール帳を活用して、自らの生活を管理できるよう指導する。 | 4 80%以上の生徒が、振り返りを利用して次の目標をたてることができた。 3 70%以上の生徒が、振り返りを利用して次の目標をたてることができた。 2 60%以上の生徒が、振り返りを利用して次の目標をたてることができた。 1 50%以上の生徒が、振り返りを利用して次の目標をたてることができた。 | 2 | ○ スケジュール帳への記入が確実にできている生徒は多くはない。10月以降の提出率は70%に満たない。学習の振り返りができる生徒は増えてきたが、次の目標を記入できている生徒は少なかった。しかし、チューターによる面談を通じて、自らの学習目標を設定でき始めている生徒は増えたように感じる。 | これからの社会で、自らの生活を管理できる能力はますます重要視されると考えられる。 | B |
| 5 回生 | 学習指導 | 自己進路の明確化 | 個人面談の機会を十分確保する。 | 4 チューターによる個人面談を年4回以上行う。 3 チューターによる個人面談を年3回以上行う。 2 チューターによる個人面談を年1回以上行う。 1 チューターによる個人面談は年1回未満である。 | 3 | ○ 学習状況の把握やよりよい進路選択を目的として、各チューター会とも年3回の面談を実施した。学校生活上の悩みを抱える生徒に対しては、定期的な面談に加え、個別の面談を随時行った。 | チューターによる個人面談を実施し、生活指導・進路指導をきめこまかくおこなったことがうかがえる。 | A |
| | 生活指導 | 望ましい生活習慣の確立 | 欠席・遅刻を減少させるための取組を充実させる。 | 4 学年皆勤者数40名以上 3 学年皆勤者数30名以上 2 学年皆勤者数20名以上 1 学年皆勤者数20名未満 | 2 | ○ 不注意による遅刻を繰り返す生徒に対して粘り強く指導を行ったが、大きな改善はみられなかった。今後の継続課題である。 | 学校生活全般の指導を通して、今後も引き続き、望ましい生活習慣の確立に努めてもらいたい。 | B |
| 6 回生 | 学習指導 | 希望進路の実現 | 授業・課外・朝学などに主体的に取り組む。 | 4 希望進路を実現した生徒が90%以上であった。 3 希望進路を実現した生徒が70%以上であった。 2 希望進路を実現した生徒が50%以上であった。 1 希望進路を実現した生徒が50%未満であった。 | 3 | ○ 最終結果は出ていないが、進路未定による浪人生は7人であり、ほとんどの生徒が自分の決めた進路に進むことができた。 | 組織的・計画的な取組が充実しており、生徒の希望進路の決定率の向上につながっている。 | A |
| | 生活指導 | 最上級生としての自覚の向上 | 部活動・学校行事と学習活動とのけじめをつける。 | 4 学年当初より自主学習時間（家庭学習時間を含む）が増加した生徒が90%以上であった。 3 学年当初より自主学習時間（家庭学習時間を含む）が増加した生徒が70%以上であった。 2 学年当初より自主学習時間（家庭学習時間を含む）が増加した生徒が50%以上であった。 1 学年当初より自主学習時間（家庭学習時間を含む）が増加した生徒が50%未満であった。 | 3 | ○ 部活動終了後の夏季課外、進学課外、休日の自習室開放、昼学、冬期自主課外、センター後の個別試験対策などを通じて、多くの生徒が受験生としての意識を向上させて取り組むことができた。 | 組織的・計画的な取組が充実しており、生徒の希望進路実現に向けた努力を導くことができてきているように感じられる。 | A |

5 学校評価総括(取組の成果と課題)

(1) 確かな学力の保証

- 各学年・教科で学力面のデータ分析を行い、全教員で共通理解を図り、授業改善などに取り組んだ結果、今年度も如実な学力向上がみられた。今後とも一層学力向上に取り組む。
- 次期学習指導要領に基づき新大学入試制度に対応した教育課程の実施に取り組む。
 - ・次期学習指導要領に対応した新教育課程の研究に全教科で取り組み、編成を終えた。
 - さらに、新大学入試制度についても研究を深め、より効果的な教育課程の実施に努めたい。
- 授業以外での学習時間の目標を示すことで生徒の主体的な学習習慣の確立を図る。
 - ・授業以外の学習時間については、生徒・保護者の約半数、教員の7割が不足していると感じている。今後の大きな課題である。
- 世界に飛躍する人材の育成に向けて、英語教育の改善・充実を図る。
 - ・本校主催の英語学習セミナーに加え、民間業者による同セミナーの新規実施など、授業以外での英語教育にも積極的に取り組んだ。
 - ・ALTと理数教科教員でイマージョン教育を実施し、本校全体で研修に取り組んだ。今後も研修を進めていきたい。
 - ・平成29年度入学生から、4回生時での14日間カナダ語学研修に変更し、より効果的な英語教育を計画している。

(2) 生徒一人ひとりの希望進路の実現

- 一人ひとりに対応した適切な指導により、就職希望者7名は公務員6名を含め希望実現、進学希望者95名は88人が希望を実現した。(3月24日現在)
- 生徒が明確な将来像を描けるよう、大学や地元企業と連携した大学等ゼミ訪問や企業研究等の取組を一層推進していく。
 - ・1回生で下関市立大学訪問、2回生で山口東京理科大学訪問、3回生で山口大学本学訪問、4回生で志望大学オープンキャンパス参加、3～5回生では県内国公立大学講師による「大学出前講義」を実施し、生徒の明確な進路意識を醸成することができた。
- 各学年で模擬試験結果などの進路データを有効に活用した進路検討会を実施する。
 - ・各学年の進路検討会で模擬試験結果などを分析し、適切な対応をした結果、模試成績の向上につながった。
- 本校で構築した新たな大学入学者選抜制度への対応を着実に実践していく。
 - ・小論文対策・面接対策に組織的に取り組み、成果をあげた。
 - ・作成された面接・集団討論の生徒用マニュアルが指導に生かされた。

(3) 豊かな心を持ち、グローバル社会を生き抜いていく力を身に付けた生徒の育成

- 各分掌・学年で人間教育に取り組み、着実に成果をあげている。
- 生徒会、学校行事、寮におけるリトル・ティーチャー制により、生徒のリーダーシップを育成する。
 - ・各種行事において、リトル・ティーチャー制を取り入れ、生徒の企画・運営・指導力を発揮させ、生徒の自主活動を推進させることができた。
 - ・寮生活においてもリトル・ティーチャー制を取り入れることで、自立心が育ち、円滑な生活を送ることができた。
- 人間関係づくりや国際交流の活動等を通して、コミュニケーション能力を高め、他者を尊重し協働して問題を解決していく力を育む。
 - ・学校行事や学年行事で、生徒が主体的に活動する場を多く設定し、望ましい集団の育成に努めた。
- 生徒が主体的に取り組むボランティア活動を一層推進する。
 - ・ペットボトルキャップ・プルタブなどの収集ボランティア、歳末たすけあい募金活動などに多くの生徒が参加した。
 - 今後も多くの生徒が参加できるように、一層の充実を図っていく。
- 留学制度について啓発活動の充実を図り、生徒の参加を促進する。
 - ・海外留学について啓発活動に取り組み、留学を促進した結果、「トビタテ！留学JAPAN」への参加など、留学する生徒が増加した。

(4) 組織としての課題解決力の確立

- 全教員がリスクマネジメント意識を持てるように今後とも計画的に研修に取り組んでいく。
- 教科研修会、互見授業と教科領域別研究授業等の計画的な実施により、教員全体の教科指導力を一層高める。
 - ・各教科で定期的・計画的に研修会を開催し、教科指導力向上に励んだ。
 - ・イマージョン教育活動を実施し、教員全体で研修に取り組んだ。
- 生徒指導、道徳・人権教育、教育相談等の計画的な研修により、いじめや問題行動等への対応を含む教員の指導力の一層の向上を図る。
 - ・計画的に研修を実施した。引き続き教員の指導力の一層の向上を図っていく。

(5) 生徒募集活動の強化による志願者数の増加

- 志願倍率が1.8倍と最も高くなり、強い目的意識と高い学力を持った児童が志願した。
- 本校の教育活動を整理した「飛翔プロジェクト」を推進し、地域や保護者への広報活動の充実を図る。
 - ・「飛翔プロジェクト」を推進し、地域・保護者への広報活動の充実することにより、本校の教育活動の理解が深まった。
- 小学生を対象とした、おいのやまサイエンスセミナー、英会話教室、部活動体験などの取組の充実を図る。
 - ・本校での教育活動体験により本校への関心・興味が一層強まり、強い目的意識と高い学力を持った児童が志願した。

6 次年度への改善策

次年度は、飛翔プロジェクトを円滑に運営することで、地域や大学との連携を一層深めながら「未来社会を生き抜く総合的な人間力」と「高い学力」を培い、世界に飛躍する人材の育成に向けて教育活動の充実に努める。

(1) 確かな学力の保証

- 新大学入試制度に対応した指導の研究を深め実践する。
- 生徒の主体的な学習習慣の確立を図る。
- 世界に飛躍する人材の育成に向けて、英語教育の改善・充実に努める。

(2) 生徒一人ひとりの希望進路の実現

- 生徒が明確な将来像を描けるよう、大学や地元企業と連携した大学ゼミ訪問や企業研究等を円滑に実施する。
- 本校で構築した新たな大学入学者選抜制度への対応を着実に実践していく。

(3) 豊かな心を持ち、グローバル社会を生き抜いていく力を身に付けた生徒の育成

- 生徒会、学校行事、寮におけるリトル・ティーチャー制により、生徒のリーダーシップを育成する。
- 人間関係づくりや国際交流の活動等を通して、コミュニケーション能力を高め、他者を尊重し協働して問題を解決していく力を育む。
- 生徒が主体的に取り組むボランティア活動を一層推進する。
- 留学制度について啓発活動の充実に努め、生徒の参加を促進する。

(4) 組織としての課題解決力の確立

- 教科研修会と一人一研究授業等の計画的な実施により、教員全体の教科指導力を一層高める。
- 生徒指導、道徳・人権教育、教育相談等の計画的な研修により、いじめや問題行動等への対応を含む教員の指導力の一層の向上を図る。

(5) 生徒募集活動の強化による志願者数の増加

- 本校の教育活動を整理した「飛翔プロジェクト」を推進し、地域や保護者への広報活動の充実に努める。
- 小学生を対象とした、おいの山サイエンスセミナー、英会話教室、部活動体験などの取組の充実に努める。